

「技術士として 生涯現役に生き抜く」

— 技術図書出版および小説出版体験記 —

石油分析化学研究所

研究所長、工学博士(大阪大学)

技術士(化学部門)

藤田 稔

1. 自己紹介

藤田 稔(ふじた みのもる) 愛媛県新居浜市出身

- 1943年 愛媛県立新居浜中学校入学
- 1945年 廣島陸軍幼年学校入学
- 1950年 旧制松山高等学校理科卒業
- 1953年 旧制大阪大学工学部応用化学科卒業
卒論テーマ「石炭およびコールタールに関する研究」
- 1953年 昭和石油(株)(現:昭和シェル石油(株))入社
中央研究所にて「燃料油, 潤滑油, グリース, 添加剤の開発研究」
- 1979年 同社中央研究所研究部長
国家プロジェクト「カナダオイルサンドよりクリーン燃料油の製造開発研究」
- 1985年 昭和シェル石油(株)中央研究所・主幹研究員
- 1988年 富士シリシア化学(株)および富士化学(株)常勤技術顧問
- 2000年 石油分析化学研究所代表, 研究所長
現在に至る

2. 受賞歴

- (1) 1962年2月 大阪大学工学博士「液体クロマトグラフィーによる石油の分析」
- (2) 1973年4月 石油学会論文賞「石油類の分析法の開発および流動点降下剤の新合成法の開発」
- (3) 1988年5月 石油学会功労賞 石油学会創立30周年にあたり、この間、編集幹事、企画委員、運営委員を担当して学会会員の増加、学会の発展に寄与した。また学会発行技術図書 of 企画、編集、執筆をおこなった。
- (4) 1994年5月 石油学会学会賞 「潤滑油類の分析法の開発と脱金属触媒の発見」
- (5) 1991年4月 日本科学技術情報センター(JICST)永年翻訳功労賞 毎月発行される世界の石油関連雑誌(英語、ドイツ語論文)のすべてを翻訳して150字の日本語に抄訳する業務を20年間実施した。
- (6) 1999年2月 科学技術庁技術士(化学部門)1回の受験で合格。倍率10倍。

受賞歴

- (7) 2004年3月 日本油化学会功績賞 当初は石油と油脂からなる学会であったので石油関連論文を投稿、理事、編集委員、企画委員を長くつとめた。また海外論文抄録を30年間実施した。
- (8) 2005年5月 日本トライボロジー学会功績賞 学会誌に多くの論文を投稿、理事、編集委員、企画委員を長くつとめた。潤滑油、グリース、添加剤に関する図書を多く出版した。また潤滑油に関するセミナーを毎年実施して、トライボロジーの重要性を世に広めた。
- (9) 2006年6月 日本技術士会 会長賞(論文賞)新しくきめられた会長賞であり論文数、出版図書数、講演回数などの多くの条件を突破しないといけない。
- (10) 2008年6月 日本技術士会 名誉会員 詳細は省略する。
- (11) 2009年3月 大阪大学工学部化学系同窓会 会長賞
大阪大学卒業生の中で特に優れた業績をあげた人に与えられる。厳密な審査会があり、私は79歳で受賞した。

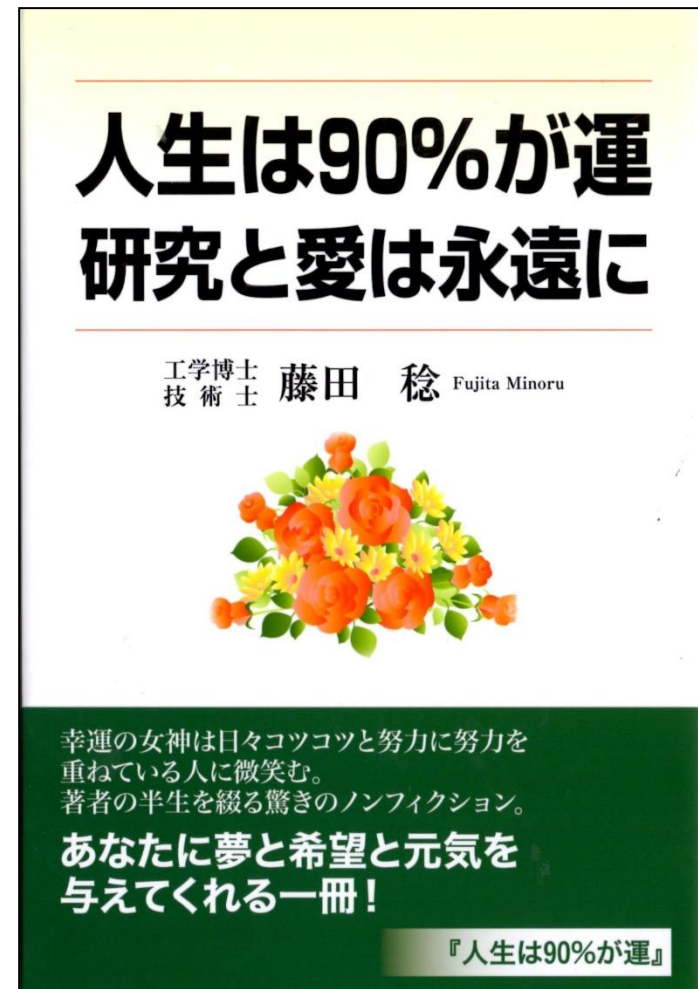
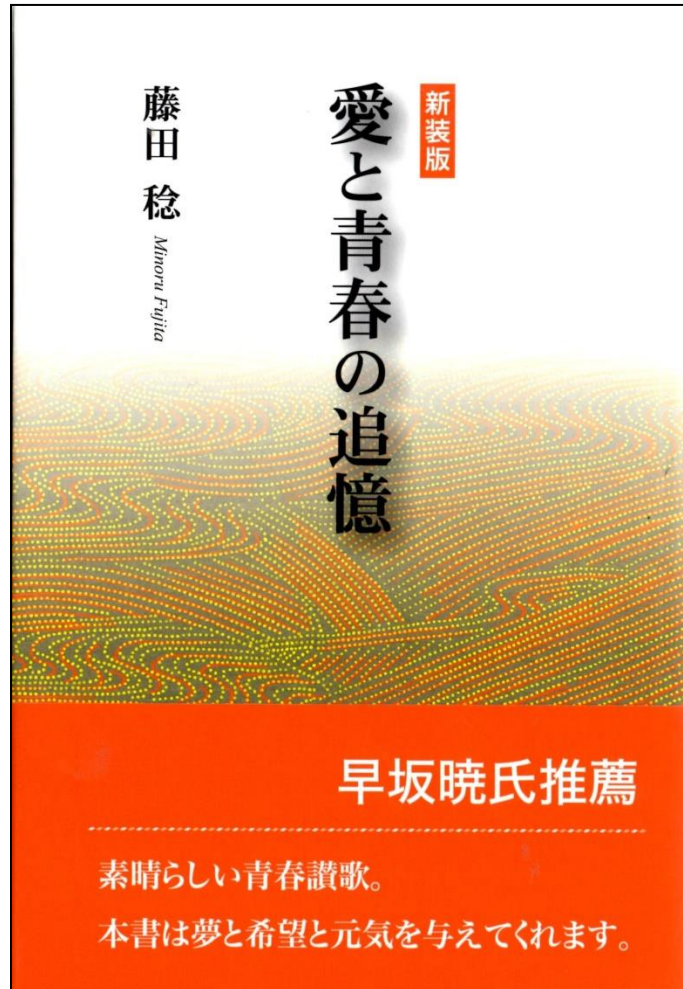
3. 技術図書出版

- (1) 舟阪 渡, 藤田 稔 他 「燃料分析試験法」 南江堂 (1968)
- (2) 舟阪 渡, 藤田 稔 他 「石油機器分析の実際」 南江堂 (1972)
- (3) 桜井 俊男, 藤田 稔 他 「石油製品添加剤」 幸書房 (1986)
- (4) 藤田 稔 共著 「潤滑剤の実用性能」 幸書房 (1980)
- (5) 藤田 稔 共著 「潤滑グリースと合成潤滑油」 幸書房 (1984)
- (6) 藤田 稔 「石油分析化学」 石油分析化学研究所 (1992)
- (7) 藤田 稔 「燃料油・潤滑油および添加剤の特性と分離・分析技術」
(株)技術情報協会 (1996)
- (8) 藤田 稔 共著 「界面活性剤の機能創製・素材開発・応用技術」
技術教育出版(有) (2011)
- (9) 藤田 稔 共著 「界面活性剤の選択方法と利用技術」
サイエンス&テクノロジー(株) (2007)
- (10) 藤田 稔 「燃料油、潤滑油および添加剤の基礎と応用」
サイエンス&テクノロジー(株) (2008)
- (11) 藤田 稔 「燃料油、潤滑油・グリース・添加剤の基礎と添加剤の
分離分析方法」 サイエンス&テクノロジー(株) (2016)

4. 技術論文発表

- (1) 潤滑油添加剤における各種規制の動向、トライボロジー (2005)
- (2) 潤滑油添加剤をとり巻く環境の変化と求められる役割・性能、潤滑経済 (2005)
- (3) 潤滑油の試験方法および分離分析方法の開発、環境と測定技術 (2007)
- (4) 使用潤滑油の分析方法と交換基準および添加剤の安全性、環境と測定技術 (2007)
- (5) 燃料油の製造方法の進歩、潤滑経済 (2008)
- (6) 化学、環境、安全における技術者資格、日本機械学会誌 (2009)
- (7) 燃料油添加剤の化学構造と作用機構について、防錆管理 (2009)
- (8) 学会賞男と呼ばれて、大阪大学工業会誌、テクノネット (2005)
- (9) 技術士への道、オレオサイエンス (2005)
- (10) 資格を取ろう、化学経済 (2005)
- (11) 研究開発における発想点とその成果、大阪大学工業会誌、テクノネット (2006) 5回連載
- (12) 化学は夢をかたちに、オレオサイエンス (2006)
- (13) 旧満州旅情紀行、関東愛媛 (2007) (小説)
- (14) 経堂物語、関東愛媛 (2008) (小説)
- (15) 愛媛大学・大植登志夫先生の思い出、関東愛媛 (2009)
- (16) 大阪大学・船久保英一先生の思い出、大阪大学工学部化学系同窓会ホームページ (2009)
- (17) 技術開発小説・「天然酸化防止剤の発見」、オレオサイエンス (2009)
「研究と愛は永遠に」 6ヶ月連載
- (18) 岩村昇博士の思い出、関東愛媛 (2011)

5. 小説出版



小説出版

「愛と青春の追憶」

2003年 東京図書出版会の懸賞小説に入選。

第一部 「少年時代」 満州の幼稚園時代から廣島陸軍幼年学校。

第二部 「青春, 友情, 希望」 早坂暁, 岩村昇らと演劇に打ち込んだ
旧制松山高等学校時代。

第三部 「美しい結晶」 石油研究所における技術開発小説。

2004年 初版 1000部 完売, 第二版 500部 残部少。

東京読売新聞と愛媛新聞に書評のる。好評。

石油学会ペトロテック誌にて鹿島實先生激賞。感謝。

日本油化学会オレオサイエンス誌にて北原文雄先生激賞。感謝。

小説出版

「人生は90%が運」

(第1部) 人生は90%が運

(第2部) 研究と愛は永遠に

2017年東京図書出版会のAランク(優秀賞)に認定される。

初版500部完売。親友、二見淳氏(東京大学工学部応用化学科卒、元帝人(株)コーネックス事業部長)からは「第2部は石油商品の研究開発物語で、難しい化学実験、理論を易しくわかりやすく書いていて素晴らしい。このようなわかりやすい技術開発小説を4～5編書いて一冊の本にしてもらいたい。若人の理科離れをくいとめるために有効と思う。」との有難いお言葉を頂いた。

また、北里環境科学センター理事長の伊藤俊洋先生からは「素晴らしい小説で感動しました。第2部の神谷京子さんのその後の運命は如何に。」とのお言葉を賜りました。

6. 愛媛新聞四季録

小説「愛と青春の追憶」 愛媛新聞社文化部長に贈呈。
四季録の執筆依頼くる。 2004年4月～9月, 6ヶ月間。
毎週土曜日の朝刊掲載。1回 1200字。全25回。

執筆テーマ(例)

- (1) 21世紀の日本のエネルギー
- (2) カナダ・オイルサンドの開発
- (3) 松高庭球部賛歌
- (4) 夢千代日記
- (5) 東京メトロ
- (6) ネパールの岩村記念病院
- (7) 横浜文学散歩
- (8) ドイツ語とともに50年
- (9) 化学の魔術師
- (10) 海外技術指導余話

7. 俳句, 短歌, 作詞, 選集

俳句 五句 藤田 稔

神の手に戻りゆく^{やま}鉾山緑濃し
蟬しぐれふと果てしより雨もよい
野にふせば^{ひばり}雲雀を揚げて二た所
ふと殺気万緑の中の^{ほこら}石祠
涛声の這いのぼりくる冬の宿

和歌 五句 藤田 稔

白ばらの庭に一輪咲き出でて朝日に映えし心洗わる
落日の紅き炎に彩られ木々合唱すいのちの歌を
初孫の安らにまどろむ春の朝その名を呼べば寝顔ほほえむ
おだやかなほほえみたたえし君はいつもいかにつらからん日々に堪えても
黒髪に粉雪降りて母老いぬ力盡きてん別れの^{とき}刻に

俳句，短歌，作詞，選集

梅錦讃歌（社歌） 作詞 藤田 稔 作曲 紺田 功

1. 初日は昇る湘南に
富士白銀に輝いて
平和な新春ことほぎつ
交すさかずき梅錦
2. 春爛漫の花の宵
歴史は古き鎌倉に
静御前を偲ぶれば
盃に花びら梅錦
3. さわやかな風帆にうけて
ヨットは滑る江の島に
青い海原水平線
君と乾杯梅錦
4. 満山紅葉箱根路に
家族すこやかハイキング
ひなびた宿のいろりばた
しみじみとのむ梅錦

俳句，短歌，作詞，選集

松高庭球部讃歌（部歌入選） 作詞 藤田 稔 作曲 紺田 功

松高ガンツ節（入選）

作詞 藤田 稔

1. ^{かつやまじょうとう}勝山城東風さやか
自由の息吹き満ちわたる
テニスコートにわれたてば
血潮はたぎるふつふつと
ああ思い出のインターハイ
ああ青春の松高庭球部
2. 石手の流れ水清く
せせらぎの音に啓栄あり
ボレー スマッシュ ストローク
心の通う球と汗
ああうるわしきインターハイ
ああ友情の松高庭球部
3. ^{はっきゅう}白球追いて^{いくととせ}幾十年
永遠に変わらぬ師弟愛
ファイト松高スピリッツ
勝利の^{さかずき}盃重ねつつ
ああ悠久のインターハイ
ああ栄光の松高庭球部

1. 白線帽に黒マント
高下駄の音響きゆく
われら天下の松高生
古城ヶ丘に登り来て
「若葉の古城」を吟ずれば
桜吹雪が肩に舞う
そいつはガンツ^{いき}粹ぞなもし
2. 紺のかすりに^{くろばかま}黒袴
手拭い腰にゆらゆらと
われら天下の松高生
いでゆの町を^{しょうよう}逍遥し
「月砕け散る」を吟ずれば
星はまたたく満天に
そいつはガンツ^{いき}粹ぞなもし

8. 現在の技術士活動

1. 日本技術士会 名誉会員 (2008 – 2023)

総会、講演会、懇親会 参加

2. 日本技術士会 化学部会 顧問、幹事 (2000 – 2023)

総会、講演会、見学会、懇親会 参加

3. 日本技術士会 神奈川県支部 会員 (2000 – 2023)

総会、講演会、見学会、懇親会 参加

4. 日本技術士会 大阪銀杏技術士会 会長 (2012 – 2023)

総会、講演会、見学会、懇親会 参加

海外出張および技術指導

1. 1975年 アルジェリア

オラン市において潤滑油研究所建設の依頼を受けて企画、設計、建設、機器分析装置、エンジン室などについて技術指導した。

2. 1975年 英国

シェル社ソーントン研究所訪問。シャーシーダイナモ、全天候型エンジンルーム、最新機器分析装置などを見学して勉強した。

3. 1975年 オランダ

シェルアムステルダム中央研究所訪問。各種装置を見学して説明を受けた。研究所の規模は大きく2000名の社員が研究に励んでおり、大学教授兼任の方や博士も多くおられた。最近ではインドに大規模な中央研究所が完成。

4. 1983年 韓国

ソウルの石油会社から潤滑油、グリースの製造工場をつくりたいので潤滑油、グリース、添加剤の基礎、製品の種類、分析方法などを教えてほしいとの要請があったので技術指導をおこなった。

5. 1985年 カナダ

国家プロジェクト「オイルサンドよりクリーンな燃料油の製造開発研究」を行うため、カナダアルバータ州を中心に現地調査を行った。製造上の問題点を発見して日本に帰り基礎研究、応用研究、パイロットプラント運転を行いカナダ製品より10パーセントも収率が上がるクリーンな燃料油の製造に成功。15

海外出張および技術指導

6. 1990年 中国

海南島において生産されるキャサバイモより発酵法によりアルコールを生産する研究の技術指導をおこなった。

7. 1995年 台湾

招聘を受けて台北大学で燃料油、潤滑油、グリース、添加剤の基礎と応用および添加剤の分離分析法の講演をおこなった。講演は英語で実施。夜の教授さんたちとの懇親会は日本語で交流した。教授さんたちは60ー70歳で少年のころ日本語学校にかよっていたため日本語は流暢とのことであった。

次に、嘉義市にある台湾中国石油研究所に招聘され、潤滑油、グリース、添加剤の基礎と応用、添加剤の分離分析法について英語で講演した。聴講生は20名くらいであったが優秀な方が多いようにみうけられた。質問はすべて英語であり、英語で丁寧に回答した。

8. 2006年 中国

瀋陽市において国際人材交流大会が開催されたので、日本技術士会の広報、宣伝のために参加した。良い機会であったので技術士数十名が参加して、ハルピン、長春、大連、旅順と訪問した。最も印象的であったのは、203高地と水師營の会見所であった。

9. 現在の業務

(1) 自己研鑽

自己の専門分野の先端技術を導入すること、現代の情勢をはば広く勉強し、習得することが重要。

学会誌としては、石油学会誌、日本トライボロジー学会誌、日本油化学会誌、潤滑経済、PE技術士(いずれも月刊)をとって勉強している。また、時々東京駅前の丸善の洋書部に行き、自己の専門分野の外国図書を購入している。また、東京工業大学のM教授の紹介で、図書館の入館・閲覧カードを頂き、時々最新文献の調査・コピーを行って論文作成に資している。

(2) セミナーの講師

「燃料油，潤滑油，グリース，添加剤の基礎知識および添加剤の分離・分析技術の進歩」，のタイトルで年4～5回 1日セミナー（5時間）の講師。

「ISO準拠，トライボロジーに基づくメンテナンス」の教科書を用いて年3～4回，1日～2日セミナー（10時間）の講師。

現在の業務

(3) 技術顧問

1. A 社 油圧機器メーカー

潤滑油の基礎と応用講義、機器分析の講義と実習

受講者は大学卒1年の新入社員であるが、現在使用潤滑油の欠陥を見いだし新規に潤滑油を製造して機械の大幅な性能向上を達成した。社長賞を受賞。

2. B 社 重機械工業会社

グリースの基礎と応用講義、グリースの機器分析講義と実験

現在自社使用の購入グリースより優れたグリースの製造に成功した。

大学卒1年の新入社員に2年間技術指導。現在大学博士課程で研究中。

3. C 社 石油分析専門会社

毎年新入社員を対象に潤滑油、グリース、添加剤の基礎と応用について講義している。またメンテナンス・トライボロジーカテゴリ1およびカテゴリ2の資格受験者への講習、および本試験も実施。

現在の業務

(3) 技術顧問

4. D 社 バイオ燃料製造会社

廃食用油を精製して、灯油とある比率で混合することにより優れた軽油を製造することに成功。ビニールハウス野菜、果物栽培所の冬期暖房用燃料として好評。

5. E 社 潤滑油添加剤販売会社

社員に潤滑油、グリース、添加剤の基礎と応用について講義している。顧客からのクレーム、トラブルに迅速に対処している。

講演テーマおよび指導テーマ

- (1) 燃料油の製造方法の進歩
- (2) 燃料油添加剤の化学構造と作用機構
- (3) 潤滑油, グリースの製造方法 と
その化学的組成
- (4) 潤滑油, グリースの試験方法と
その意義
- (5) 潤滑油添加剤の化学構造と作用機構
- (6) 潤滑油および添加剤の分離分析法
- (7) グリースの分離分析法
- (8) 合成潤滑油の組成分析法
- (9) 環境にやさしい潤滑油の開発
- (10) 潤滑油管理技術
- (11) ワックスの分析法
- (12) アスファルトの分析法
- (13) 流動点降下剤の合成法
- (14) 作動油の開発
- (15) 高アルカリ性船用シリンダー油の開発
- (16) 21世紀のエネルギー問題
- (17) カナダ・オイルサンドからクリーン燃料
油の製造開発
- (18) 脱金属触媒の開発
- (19) 石油精製用触媒の進歩
- (20) 研究開発における発想点とその成果
- (21) 研究論文の作成方法と実例
- (22) 特許申請書の作成方法と実例
- (23) 新燃料油の開発動向

10. 生涯現役（1930 – 2023）



生涯現役に生き抜く

- (1) 国家資格「技術士」の価値は非常に高い。

技術士業務は与えられるものではなく、自ら開発してゆくべきものである。世界一ともいうべきオリジナルな技術を有する人には、自然に先方から仕事が舞い込んでくる。私は仕事をとるための営業活動はしたことがない。

- (2) 家庭円満，健康，仕事，これが私の生活モットーである。

家内の協力なくして，健康なくして，仕事はあり得ない。私と家内は若い頃より健康には十分に留意して生活し，毎年定期健康診断を必ず受けて来た。また最近では，メディカルセンターでCT，MRIによる全身ガン検診を受けた（全く異常なし）。私も家内も結婚以来，大きい病気，入院は全くしていない。神様にいつも感謝している。

- (3) 一期一会の言葉の重さをかみしめている。

家内との結婚，大阪大学の恩師船久保英一先生，昭和シェル石油（株）の恩恵，技術士の皆様との出会い。私は生涯現役に生き抜く覚悟である。

以上